

令和6年度 自己点検評価報告書

令和7年6月16日

愛甲農業科学専門学校

責任者 西村 公男

記載者 齊藤 伸二

目 次

基準 1	教育理念・目的・育成人材像		基準 6	教育環境	
	1- 1 理念・目的・育成人材像	1		6-21 施設・設備等	9
基準 2	学校運営			6-22 実習・インターンシップ	9
	2- 2 運営方針	2		6-23 防災・安全管理	9
	2- 3 事業計画	2	基準 7	学生の募集と受け入れ	
	2- 4 運営組織	2		7-24 学生募集活動	10
	2- 5 人事・給与制度	2		7-25 入学選考	10
	2- 6 意思決定システム	2		7-26 学納金	10
	2- 7 情報システム	2	基準 8	財務	
基準 3	教育活動			8-27 財務基盤	11
	3- 8 目標の設定	4		8-28 予算・収支計画	11
	3- 9 教育方法・評価等	4		8-29 監査	11
	3-10 資格取得の指導体制	4		8-30 財務情報公開	11
	3-11 教員・職員の組織	4	基準 9	法令等の遵守	
基準 4	学修成果			9-31 関係法令・設置基準の準拠	12
	4-12 就職率	6		9-32 個人情報	12
	4-13 資格・免許の取得率	6		9-33 学校評価	12
	4-14 卒業生の社会的評価	6		9-34 教育情報の公開	
基準 5	学生支援		基準 10	社会貢献・国際交流	
	5-15 就職等進路	7		10-35 社会貢献・地域貢献	14
	5-16 中途退への対応	7		10-36 国際交流	14
	5-17 学生相談	7		10-37 ボランティア活動	14
	5-18 学生生活	7		10-38 生涯教育等	14
	5-19 保護者との連携	7			
	5-20 卒業生・社会人	7			

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
1-1	理念・目的・育成人材像	1-1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	90%
		1-1-2	育成人材像は、専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	80%
		1-1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	70%
		1-1-4	理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか	80%

【 達成度合いの評価 】 0% (取り組めていない) ～ 100% (取り組みは十分で成果も出ている) . までの 11 段階評価

総括と課題	今後の改善策	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情)
<p>■点検結果：理念・目的・育成人材像は、概ね基準をクリアしていると考えます。</p> <p>1-1 理念・目的・育成人材像</p> <p>本校の教育理念は、「専門教育」と「人間教育」の2つに分けられる。この教育理念に基づき、専門的なスキルと人間性を備えた人材を世に輩出することを使命としている。</p> <p>(1) 次世代の農業の担い手の道を、新しい農業のカタチである水耕栽培で切り拓くために、真摯に取り組んだことが認められる人</p> <p>(2) 自分のための学びをとめず、実践を通じてレベルアップを目指せると認められる人</p> <p>(3) 価値観や感性の異なる様々な人々たちを理解し、協働できると認められる人</p> <p>(4) マナーやコミュニケーションなどの、社会人として基礎力を身に付けて、社会への貢献が期待できる人</p>	<p>1-1 理念・目的・育成人材像</p> <p>本校では、(1)アドミッションポリシー (2) カリキュラムポリシー (3)ディプロマポリシーの3つのポリシーを設定している。水耕栽培に関しては、年々その技術が発展している分野であり、これに伴い(2)カリキュラムポリシーは、学習する科目やその内容を吟味し、バージョンアップを図っている。今年度は、実習内容の刷新を図り、基礎から応用まで段階的に知識の幅を広げることを行ってきた。</p> <p>また、課題研究では自主性と責任性の大切さについて経験を通して身に付け、ファーマーズマーケットでは、コミュニケーションと協調性を養うきっかけとしている。</p>	<p>1-1 理念・目的・育成人材像</p> <p>水耕栽培による野菜づくりという特殊分野の知識習得のためには、日々の植物観察と成長記録が重要となる。これらを習慣化することにより、即戦力となる専門性が身につくこととなる。</p>

基準 2 学校運営

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
2-2	運営方針	2-2-1	理念等に沿った運営方針を定めているか	80%
2-3	事業計画	2-3-1	理念等を達成するための事業計画を定めているか	60%
2-4	運営組織	2-4-1	学校運営のための組織を整備し、組織運営を適切に行っているか	80%
2-5	人事・給与制度	2-5-1	人事・給与に関する制度を整備しているか	70%
2-6	意思決定システム	2-6-1	教務・財務等の意思決定システムを整備しているか	70%
2-7	情報システム	2-7-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	50%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：運営方針、事業計画、情報システム化は、達成度合いが低く、課題としている。</p> <p>2-2 運営方針 本校の専門教育の柱である水耕栽培が学べる専門学校として、実習の充実が最も重要となる。これに伴い、実習設備及び計測機器等の充実が必要である。</p> <p>2-3 事業計画 目標設定は行われているが、達成のための具体的な手段の構築に甘さがある。したがって、設定した目標値に到達しない要素もあり、事業計画が機能していない面がある。</p>	<p>2-2 運営方針 実習室の充実のために、以下の改善策を講ずる予定である。</p> <p>(1) 改修した6階実習室の稼働率を高める。 (2) IT農業に対応するための計測機器の購入及びシステム開発を進める。</p> <p>2-3 事業計画 理事会及び評議員会で承認された事業計画に基づき、具体的な数値目標を設定し、目標達成のための具体的手段まで明文化し共有する。また、PDCAの徹底を図り、期中における目標達成度合いの振り返りを行い、随時改善策を講ずる。</p>	

<p>2-4 運営組織</p> <p>学校運営上の重要事項は、理事会の決議により決定し、その情報は学校運営責任者に確実に伝達されるシステムのもと、適正に組織されている。また、学校運営責任者は、教職員とともに、具体的運営方法を検討し、実行している。</p> <p>2-5 人事・給与制度</p> <p>規定はある程度整備されているが、人事考課制度の導入までには至っていない。</p> <p>2-6 意思決定システム</p> <p>教務に関する重要事項は、理事会の決議の承認を得るシステムが確立されており、財務に関する意思決定についても理事会の承認が必要な額を定め運営されている。</p> <p>2-7 情報システム</p> <p>学生管理（出席・学費・成績等）のシステムは導入しているが、その他のシステムの導入が出来ていないため、業務効率化には至っていない。</p>	<p>2-4 運営組織</p> <p>2-5 人事・給与制度</p> <p>人事・給与規程に即した制度運用を進めるために、事業計画目標に連動した人事考課制度の整備を進める。</p> <p>2-6 意思決定システム</p> <p>2-7 情報システム</p> <p>小規模の学校であるため、業務効率を追求しシステム化を早急に進める必要はないが、次年度には学校法人会計システムの導入で効率化を図る。</p>	
--	---	--

基準 3 教育活動

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
3-8	目標の設定	3-8-1	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針等を定めているか	80%
		3-8-2	学科の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	80%
3-9	教育方法・評価等	3-9-1	学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	80%
		3-9-2	関連分野の企業や関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直しをしているか	80%
		3-9-3	キャリア教育・実践的は職業教育の視点からカリキュラムや教育方法の開発・改善を行っているか	80%
		3-9-4	成績評価・単位認定・進級・卒業の判定基準は明確にされているか	90%
		3-9-5	生産物及びその観察記録等の発表を通して成果を把握しているか	80%
3-10	資格取得の指導体制	3-10-1	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体制を整えているか	80%
3-11	教員・職員の組織	3-11-1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	90%
		3-11-2	教員の資質向上への取り組みを行っているか	70%
		3-11-3	関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や指導力育成等の資質向上に取り組んでいるか	70%
		3-11-4	職員の能力開発のための研修等が行われているか	60%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：教育に関する目標設定や教育内容の改革は、順調に進んでいる。今後は、教育環境の整備を行い更に充実させる必要がある。</p> <p>3-8 目標設定 卒業時の到達目標を明確にし、教育を行っている。</p>	3-8 目標設定	

<p>3-9 教育方針・評価等</p> <p>教育課程編成委員会の設置はないが、関連分野企業の意見や企業動向に関する情報収集を行い、カリキュラムに取り込んでいる。</p> <p>また、評価方法を明確に設定し、適正に行われている。特に、実習科目の評価については、明確な基準を設定し評価している。進級・卒業に必要な要件については、学則に記載し、入学時に配布する「学校生活のしおり」に明示し告知している。</p> <p>3-10 資格取得の指導体制</p> <p>農業、特に水耕栽培に関連する資格がなく、周辺の資格試験にチャレンジしている。チャレンジする場合は、放課後に補講し合格を目指す体制を整えている。</p> <p>3-11 教員・職員の組織</p> <p>教員の水耕栽培に関する先端技術の修得に関しては、研修会等の勉強の場が少ないため、参加できていない。したがって、企業との交流の場を設け、学習機会を増やす必要がある。また、学生指導のための指導力強化のための研修には、積極的に参加している。</p>	<p>3-9 教育方針・評価等</p> <p>3-10 資格取得の指導体制</p> <p>3-11 教員・職員の組織</p> <p>水耕栽培を運営する植物工場等の状況把握のためにも、積極的な接触を図る。また、次年度には、全国の植物工場及び関西の農業法人にパンフレット等を送付し、接点を増やす予定である。</p>	
--	---	--

基準 4 学修成果

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
4-12	就職率	4-12-1	就職率の向上が図られているか	70%
4-13	資格・免許の取得率	4-13-1	資格・免許の取得率の向上が図られているか	70%
4-14	卒業生の社会的評価	4-14-1	卒業生の社会的評価を把握しているか	60%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：就職活動のスタートが遅かったため、年明けの内定獲得となった。ただし、就職希望者の希望職種に応じた就職には、ある程度満足できる領域と判断している。</p> <p>4-12 就職率 内定獲得のタイミングが遅かった。しかし、インターンシップを積極的に取り入れ、学生に合った職種への就職はある程度できている。</p> <p>4-13 資格・免許の取得率 水耕栽培の資格試験がないため、周辺の資格試験にチャレンジさせている。受験率も向上しており、合格率の向上のための学習と意識づけが必要である。</p> <p>4-14 卒業生の社会的評価 卒業生の後追いが不足している。</p>	<p>4-12 就職率 インターンシップのタイミングを前倒しし、学生に合った職種を絞り込むための活動を早期化させる。</p> <p>4-13 資格・免許の取得率 入学時より、資格試験の合格に対する意識づけのための機会を多く持つとともに、教員の合格のためのフォロー体制を構築する。</p> <p>4-14 卒業生の社会的評価 就職して半年後には、卒業生にヒヤリングし、状況確認を行うとともに、企業にヒヤリングを行う。</p>	<p>4-12 就職率 農業分野の就職活動は、他の民間企業に比し相対的に遅いことも要因のひとつである。</p>

基準 5 学生支援

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
5-15	就職等進路	5-15-1	就職等進路に関する支援体制を整備しているか	80%
5-16	中途退学への対応	5-16-1	退学率の低減が図られているか	80%
5-17	学生相談	5-17-1	学生相談に関する体制を整備しているか	80%
		5-17-2	留学生に対する相談体制を整備しているか	80%
5-18	学生生活	5-18-1	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	20%
		5-18-2	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	90%
		5-18-3	課外活動に対する支援体制を整備しているか	70%
		5-18-4	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	30%
5-19	保護者との連携	5-19-1	保護者等との連携体制を構築しているか	90%
5-20	卒業生・社会人	5-20-1	卒業生への支援体制を整備しているか	70%
		5-20-2	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	60%
		5-20-3	産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	0%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：学生支援体制については、十分な項目と合格に達していない項目が両極端となっている。</p> <p>5-15 就職等進路 個別に相談に乗りながら、個別に就職指導を行う体制が整っている。</p> <p>5-16 中途退学等 今年度は1名の退学者が出たが、退学に至るまでに様々な支援を行い、最終的には就職先も確保した状態での退学となっている。</p>	<p>5-15 就職等進路 就職希望者の希望職種の早期決定と、希望に見合う企業開拓を早急に行う。</p> <p>5-16 中途退学等</p>	

<p>5-17 学生相談</p> <p>個別の相談については、親身になって相談に乗り、好ましい方向に導くことができている。</p> <p>5-18 学生生活</p> <p>学生の経済的支援に関する大きな課題は、高等教育就学支援新制度の認定校になっていないことにある。条件をクリアするには、定員充足率を含めてかなりハードルが高い。</p> <p>5-19 保護者との連携</p> <p>欠席が目立つ学生の保護者には、警告文書を送るとともに、電話連絡し、学校の状況の注意喚起を行っている。</p> <p>また、就職困難者の学生の保護者に来校頂き、現状報告とともに、家庭での協力を仰ぎながら進めている。</p> <p>5-20 卒業生・社会人</p> <p>卒業生の再就職等については、相談に乗りながら情報を提供している。ただし、再教育プログラムについては、全く行えていない。</p>	<p>5-17 学生相談</p> <p>5-18 学生生活</p> <p>高等教育無償化の認定校になるため、入学生確保による定員充足率をクリアすることで、財務条件もクリアできる。中長期計画を立て、これに基づき対応する。</p> <p>5-19 保護者との連携</p> <p>5-20 卒業生・社会人</p> <p>産学連携を進めるために、インターンシップ先の拡大や植物工場との接点を増やす。</p>	<p>5-18 学生支援</p> <p>高等教育就学支援新制度の認定校になるための諸条件をクリアすることは、人気のない農業分野では、かなり厳しい状況にある。</p> <p>5-20 卒業生・社会人</p> <p>全国に参考になる植物工場が分散しているため、遠方地域の企業との接点を持ちづらい状況にある。</p>
---	---	---

基準 6 教育環境

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
6-21	施設・設備等	6-21-1	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	70%
6-22	実習・インターンシ ップ	6-22-1	学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等の教育体制を整備してい るか	80%
6-23	防災・安全管理	6-23-1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	60%
		6-23-2	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	30%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：施設設備の整備は、ある程度進めているが、充分といえるレベルではない。その他については、遅れていると思われる。</p> <p>6-21 施設・設備等 教育上必要な環境整備を進め、ある程度整ってきているが、完全に整っているとはいえない。</p> <p>6-22 実習・インターンシップ 学生のインターンシップには、希望職種に对应されているが、校外実習や海外研修等の提供には至っていない。</p> <p>6-23 防災・安全管理 防災・安全管理については、体制が整っていない。</p>	<p>6-21 施設・設備等 今年度は、アクアポニックスの導入を行い、実習の幅の拡大を行った。まだまだ不完全な点もあり、研究が必要である。計器類については、計画的に導入を行う。</p> <p>6-22 実習・インターンシップ 岡山県真庭市と連携し、2年生の実習研修（2泊3日）を予定している。</p> <p>6-23 防災・安全管理 計画書及び防災訓練等を実施する。</p>	

基準 7 学生の募集と受け入れ

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
7-24	学生募集活動	7-24-1	高等学校と接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	70%
		7-24-2	学生募集活動は、適正かつ効果的に行われているか	40%
7-25	入学選考	7-25-1	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	80%
		7-25-2	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	80%
7-26	学納金	7-26-1	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	90%
		7-26-2	入学辞退者に対し、授業料等について適正な取り扱いを行っているか	100%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：高校への認知度を高める活動は行っているが、入学者増には繋がっていない。水耕栽培や農業の専門学校認知度を高める活動が必要である。</p> <p>7-24 学生募集活動 農業や水耕栽培の希望者が限定的であり、募集には苦戦している。</p> <p>7-25 入学選考 入学選考については、募集要項に明確に記載されている。</p> <p>7-26 学納金 学則変更を行い、学納金を実態に合わせ、施設費や実習演習費の徴収を行うこととした。</p>	<p>7-24 学生募集活動 SNSやインターネットなど、高校生の検索行動に即した広報計画に段階的に移行する。</p> <p>7-25 入学選考</p> <p>7-26 学納金</p>	<p>7-24 学生募集活動 水耕栽培を学べる専門学校が少ないため、この分野希望者の興味関心を深める活動を、数少ない専門学校で行わなければならない状況にある。</p>

基準 8 財 務

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
8-27	財務基盤	8-27-1	中長期的な財務基盤は安定しているか	40%
8-28	予算・収支計画	8-28-1	予算及び収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	60%
8-29	監査	8-29-1	財務について、会計監査が適正に行われているか	70%
8-30	財務情報公開	8-30-1	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	60%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：定員充足率が低迷しており、財務基盤は多少脆弱な点がある。予算管理については、予算計画と実行を今以上に慎重に行う必要がある。</p> <p>8-27 財務基盤 入学定員に達しておらず、財政基盤は盤石とはいえない状況である。</p> <p>8-28 予算・収支計画 収支計画の精度を高める必要がある。</p> <p>8-29 監査 適正に行われている。</p> <p>8-30 財務情報の公開 事務所内に備え置きに留まっており、今後はホームページの活用が必要となる。</p>	<p>8-27 財務基盤 募集強化について、多くの角度から見直し収入増に繋げる。</p> <p>8-28 予算・収支計画 月別予算の精度を高め予算と実績の乖離幅を最小限に抑える。</p> <p>8-29 監査</p> <p>8-30 財務情報の公開 ホームページへの掲載を検討する。</p>	

基準 9 法令等の遵守

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
9-31	関係法令・設置基準の準拠	9-31-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	70%
9-32	個人情報	9-32-1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	70%
9-33	学校評価	9-33-1	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	80%
		9-33-2	自己評価結果を公開しているか	80%
		9-33-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	0%
		9-33-4	学校関係者評価結果を公表しているか	0%
9-34	教育情報の公開	9-34-1	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	50%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：自己点検評価は行っているが、職業実践専門課程が行う学校関係者評価には至っていない。</p> <p>9-31 関係法令・設置基準の準拠 概ね問題ない。</p> <p>9-32 個人情報 個人情報保護規程を見直し、適正な規程に追加修正をなしたうえで運営している。</p> <p>9-33 学校評価 自己点検評価は行っているが、学校関係者評価には至っていない。</p>	<p>9-31 関係法令・設置基準の準拠 私立学校法の改正の基づく寄附行為の変更が完了している。</p> <p>9-32 個人情報 情報漏えい防止のために、セキュリティの強化を計画的に実行する。</p> <p>9-33 学校評価 職業実践専門課程の認定校となるための計画が必要である。ある程度の目途が立った時点で、申請する予定である。</p>	

<p>9-34 教育情報の公開</p> <p>職業実践専門課程に認定校ではないため、シラバス等の情報公開は行っていない。ホームページの改定作業を行い、学校の教育内容とその結果に関する情報は公開している。</p>	<p>9-34 教育情報の公開</p> <p>シラバスの公開を検討する。また、令和8年度よりシステム栽培学科に3つのコースを設定し、専門教育の質の向上を図る。この教育内容については、積極的にホームページ上で公開を進める。</p>	
---	--	--

基準 10 社会貢献・地域貢献

中項目		小項目		自己評価 (達成度合)
10-35	社会貢献・地域貢献	10-35-1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	80%
10-36	国際交流	10-36-1	国際交流に取り組んでいるか	70%
10-37	ボランティア活動	10-37-1	学生のボランティア活動を推奨し、具体的な活動支援を行っているか	30%
10-38	生涯教育等	10-38-1	地域に対する公開講座、教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	0%

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情）
<p>■点検結果：地域に根差した学校を目指し、交流機会を増やしている。国際交流や学生ボランティアに関しては、後れを取っている。</p> <p>10-35 社会貢献・地域貢献 学校校舎内で行う野菜の販売会や近隣の商店街に出向いの野菜販売などを通して、地域貢献を進めている。</p> <p>10-36 国際交流 韓国の使節団の見学を受け入れてはいるが、積極的に交流を図る活動は行っていない。</p> <p>10-37 ボランティア活動 学生に対して、ボランティア活動の機会を積極的に提供することを行っていないため、活動の拡大はしていない。</p> <p>10-38 生涯教育等 水耕栽培に関する公開講座等を検討しているが、実現には至っていない。</p>	<p>10-35 社会貢献・地域貢献 次年度より、基本的に毎週木曜日に校外での野菜販売会を実施する。また、愛甲農業祭（学園祭）を予定しており、地域住民との交流の場を設ける予定である。</p> <p>10-36 国際交流</p> <p>10-37 ボランティア活動 ボランティア情報を学生に伝達し、活動の活発化を支援する。</p> <p>10-38 生涯教育等 実現に向けた研究を行い、実施可能な方法を探求する。</p>	<p>10-36 国際交流 国際交流に限定せずに、国内の植物工場や農業法人等との交流を深める活動が重要と考える。</p> <p>10-38 生涯教育等 水耕栽培の仕組みは教えられても、装置を利用した実践的な教育には課題が多い。</p>